

## 2024年度（2024年7月1日～2025年6月30日）事業報告

## □この1年

相変わらずヴィエンチャンの街はにぎわっています。時間帯によっては交通渋滞がひどく、移動に以前より余裕を見なくてははいけません。配車アプリを使ったタクシーも手軽に利用できるようになりました。幹線道路沿いには大規模スーパーマーケットが次々とオープンし、買い物を楽しむ人々を見かけます。文化会館で開かれるコンサート、結婚式などでは、華やかに着飾った若者や、ゆとりのある家族連れが多く見られ、社会の変化を実感します。一般的に収入が大きく増えている訳でもなさそうな中、社会がどのようになっているのか、うかがい知れません。

一方、訪問したヴィエンチャンから車で2時間ほどの地域では、人口が減少し、仕事は少なく、村人たちの生活は厳しい状況です。経済的な理由から、もっと学びたくても中等学校前期4年間で学業を終える子も少なくありません。この学校には、いまだ生徒全員分の教科書は配給されておらず、会が提供する本が貴重な学びの資源となっています。世界で広がる格差をラオスでも痛感します。

トランプ政権の発足以来、米国は国際協力の分野でも様々な政策転換を行い、対外援助を担う米国国際開発局（USAID）の事業の83%を打ち打ち切ることを決定しました。この措置により、ラオスでも資金提供を受けていた教育分野での活動が縮小し、地雷や不発弾の除去活動を行ってきたNGOが活動を停止するなどの影響が見られます。

## ・取り組みと課題

2年目に入った第9次中期計画に基づいて、今年度の運営・活動はすすめられました。運営面で各種取り組みを継続しましたが、東京事務所では、職員体制の限度から広報活動に十分な時間を割けず、会員数の増加には至りませんでした。また「書き損じハガキ・切手収集キャンペーン」をはじめ募金の成果も充分ではありませんでした。ラオス事務所においても、JICAの草の根技術協力事業での新しい展開に集中する必要から、NGOや学校に対して図書購入を働きかけるなど、資金調達活動ができず、課題が残りました。一方で、皆さまからのご寄付の結果、また事業受託などにより、長年の懸案であった財務状況の改善がすすみました。感謝にたえません。また、東京事務所とラオス事務所との定期的な情報共有により、ラオス事務所スタッフからの提案、発言が増え、同じ方向ですすんでいる安心感が増してしています。厳しい環境の中、両事務所が協力して課題に取り組み、ラオスの子どもたちに必要な支援事業を継続的に実施することができました。

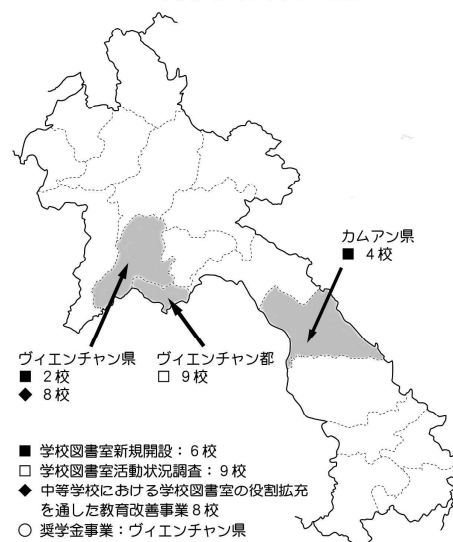
事業活動では、「ラオス語図書の出版」と「図書室活動の整備」を基本として、各種事業を継続しました。ヴィエンチャン県内中等学校16校を対象とした「中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業」（JICA草の根技術協力事業）では、県や郡教育局との連携により順調に進展しました。出版事業では、福音館書店のラオス語版『ぐりとぐら』の出版にあたり、多くの方々からご支援をいただき、計画を上回る冊数を出版することができました。

国内では、今年度も多くの方にカレンダーを購入いただいたほか、企業の皆さまの「ラオス語絵本プロジェクト」への参加が増え、活動の広がりを感じます。一方、この数年来の課題である東京事務所の体制強化は、求人活動への反応がなく改善できませんでした。

## ・成果

皆さまのご支援の結果、今年度は、ラオス語図書4種類12,000冊を現地で出版し、6か所で新規の学校図書室を開設することができました。今年度末までの累計ではラオス語図書 241種類 958,855冊（図書205/紙芝居20/教科書類6/ニュースレター10）を出版し、ラオスの小中学校10,641校（小学校8,757校、中等学校1,836校 ラオス教育スポーツ省統計2021）のうち、362カ所で図書室（うち16カ所は地域文庫）を開設し、2,759校に図書セットを配付しました。また、3カ所の子どもセンターに図書セットを渡し、活動の活性化を支援しました。

2024年度 事業対象地域図



## プロジェクト

＜計画＞ ラオスにおいて、以下を中心とする活動をおこなう。

1. 子どもたちが読書に親しむ環境を整える「読書推進活動」
  2. 子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」
- ・国内では、ラオスでの実施事業を紹介すると共に自己資金の拡充のために、イベントの参加や実施、出前講座活動、ラオス語絵本プロジェクトなどを展開する。

### I 読書推進活動

#### I-1 中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業

＜計画＞ ヱィエンチャン県サナカム郡・ムーン郡の8校で、図書室を整備し、「県教育スポーツ局主導で、図書室活用を取り入れた中等学校教育改善の普及体制が構築される」ことを目標に、2023年5月から3年間の事業を実施する。事業は、以下の4つの成果を目指す。

- 成果1:学校図書室整備と持続的な運営体制の強化
- 成果2:学校図書室の役割の拡充 「読書の間」から「学習・情報センター」へ
- 成果3:図書室維持発展のためのネットワークの構築
- 成果4:図書室を活用した学校教育改善を県内で展開する体制の構築

＜実施＞

- ・8月5日～9日に、各郡教育局にて、「オリエンテーション会議」「学校図書室交流大会」を実施。交流大会では、図書館展示や授業での図書活用について、各校の実践例を発表し合い、お互いに良い刺激となった。
- ・2月及び4月に、各校で2日間にわたり「学校図書室オープンデー」を実施。対象を住民、生徒、教員のグループに分けて、図書室担当の教員が使い方を説明。図書室ボランティアの生徒が紙芝居や詩の詠唱を披露した。参加者からは「図書室が面白いところだとわかりまた来てみたい」といった感想や、早速メンバーカードを作る村人がみられた。図書室担当の教員やボランティア生徒にとっては、オーナーシップを育むことに繋がった。
- ・2月～4月にかけて、図書室運営状況が安定している4校に対して、図書室の授業での活用を広げるために「地域学習ワークショップ」を実施した。各校で2つのテーマを設定し、2クラスで実施。地域を自分達で調査し、村の年表や、ガイドブック、民話絵本などの成果物を作成した。最後に、成果物をお互いのクラスの生徒・先生や招待した村人の前で披露した。参加した生徒は、村人にインタビューするなど、普段の授業で経験したことがないことが深く印象に残っている様子であった。教員は、生徒が学習を通じて、グループで助け合って活動する協調性を身につけ、成果物を制作し発表する表現力が身についたと感じていた。地域住民は、子どもたちが地域の歴史や文化に関心を持ってくれたことをとても喜んでいた。
- ・3か月に一度の割合でモニタリングを実施し、図書室の入館記録の確認や各校で作成する3ヶ月レポートの確認やアドバイス、「学校図書室運営計画」のレビューを実施。また、直前に実施した各研修やワークショップの内容の定着なども確認している。
- ・授業における図書活用を実践例を、図書室オープンデーで紹介した際には、学校によっては多くの質問があるなど関心が寄せられている。「授業で図書活用をする前後での変化は？」という質問に対しては、「授業で紹介した本を、生徒が図書室に探しに来た」「自分自身も図書を使うことで授業がやりやすくなった」といった声がきかれた。実践例を記した「図書活用アイデアシート」は、当事業の8校合せて171枚蓄積された。

＜成果と課題＞

ほぼ計画通りに実施できている。学校により図書室の運営状況や、先生の熱心さ理解度に差があったが、上手くできていない学校へのフォローに力を入れ、改善が見られるようになった。年度毎の評価会議で、データを示すことで、運営状況が芳しくない学校の多い郡の教育局が危機感を持ち、積極的に対象校に働きかけるようになった。

【JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）】

#### I-2 学校図書室の整備

＜計画＞ 小中学校の空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を継続実施する。

### <実施>

新規開設は、以下の日程で6校に図書室を開設することができた。

2024年11月18-19日 ポーンホー中学校(HA357) ヴィエンチャン県ポーンホーン郡  
2024年11月20-21日 ポーンシー中学校(HA358) ヴィエンチャン県ポーンホーン郡  
2024年12月10-11日 ナーノー中学校(HA359) カムワン県ヒンブン郡  
2024年12月12-13日 チョムトーン小学校(HA360) カムワン県ターケー郡  
2025年1月7-8日 ナーソムブン小学校(HA361) カムワン県ブアラパー郡  
2025年1月9-10日 パークワイタイ小学校(HA362) カムワン県ブアラパー郡

【ご支援：福岡那の香ライオンズクラブ 沖電気工業株式会社OKI愛の募金  
書き損じ葉書キャンペーン 冬募金2023】

HA=HakArn= 当会が開設する図書室の愛称。ラオス語で愛読の意味

既設置学校図書室の活動継続や再活性化をねらいとして、9校にて状況調査をおこなった。ヴィエンチャン都内の小学校9か所を、10月～12月に訪問し、特に活動状況が停滞していた3校については、次年度にスタッフが訪問して再研修などをおこなうフォローアップを実施することとする。また、活動状況を報告してきた図書室で、要望がある図書室27校に、図書を追加で送付。更に、過去3年間に開設した5都県23校の図書室には、新しい図書のセットを配布する準備をおこなった。学校の規模や状況にあわせて1校あたり28冊～51冊の図書を準備した。準備が遅れたこともあり、図書セットの送付は次期におこなうこととなった。

【ご支援：国際協力団体BWP愛知 ベルマーク教育助成財団】

### <成果と課題>

新規開設は、4か所で開設を計画していたところ、予算が多く集まったことと、規模の小さい学校が対象となり、実施数を増やし6校で開設することができた。

既設図書室の状況調査は、同じ郡内の学校を1日でまわるといった形で、スケジュールを工夫した結果、9校で実施することができたが、フォローアップ活動は時間がとれず、次年度の実施となった。

## I-3 ALC図書室（ラオス事務所併設図書室）活動

- <計画> ・スタッフによる「図書室配架・展示」の実践をおこない、学校図書室運営のアドバイスのための経験を積む。  
・私立学校などに、図書室利用や読書推進活動の体験をしてもらう場としての利用を働きかける。  
・12月に子ども向けのスペシャルイベントを実施し、地域でALC図書館の周知を図る。

### <実施>

スタッフによる「図書室配架・展示」の実践は、7月に実施した。

- ・12月に 地域でALC図書館の周知を図るために、子ども向けのスペシャルイベントを実施した。
- ・私立学校1校が、校外学習として来館し、図書室利用や読書推進活動の体験をもらった。

### <成果と課題>

計画内容は実施できているが、地方出張などが多く、日常的活動があまりできていない。オープンできる日数が少なくなっている。

## II 出版プロジェクト

- <計画> 市場を意識した出版を企画し（ニーズ調査を実施し、売れる図書を出版）、質の高い書籍を出版する。  
新刊再版合計4タイトルを出版する。  
ラオス事務所のFacebookページで、毎月当会出版の本を紹介する。

### <実施>

再版2作品の計6,000部を出版した。当会がこれまでに出版した図書・紙芝居は累計241点958,855部となった。

	作品名	作者名	出版	主な支援者
1	民話絵本『カンパーとピーノイ (孤児と小さいお化け)』 第11版	文)ドゥアンドゥアン ブンヤボン 絵)ヴォンサヴァン ダムロンスック	3,000部	特定非営利活動法人地球 の木、キャノン株式会社、 書き損じハガキキャンペー ン、絵本出版指定募金
2	民話絵本『カンパーとナンガー (孤児と象牙娘)』 第10版	文)ドゥアンドゥアン ブンヤボン 絵)ヴォンサヴァン ダムロンスック	3,000部	

1. ラオスで皆知っているお馴染みの昔話。孤児（カンパー）が小さいお化け（ピーノイ）を助け、友だちとなり、いろいろな福が舞い込む物語。どの学校図書室でも貸出No. 1 となる人気作品。
  2. 1 の続きの物語。孤児（カンパー）は象牙から出てきた娘（ナンガー）を妻とし、幸せに暮らしていた。ナンガーの評判を聞きつけた王様が、無理難題をしかけ、ナンガーを奪おうとするが、そのたびに知恵をつかって切り抜ける。中等学校の文学の教科書にも一部掲載されている。
- 今回の再版を機に、教育スポーツ省の認定を受けるため、細かなラオス語表記の修正をおこなった。

- ・日本の絵本『ぐりとぐら』のラオス語版出版に向けて、準備をすすめてきたが、完成は次年度に繰り越しとなった。また、新刊でラオスの蝶をテーマにした本を出版する計画だが、原稿作成がすすまず出版に至らなかった。
- ・ラオス事務所のFacebookページで、毎月当会出版の本を紹介する計画だが、出張で忙しい月などは実施ができなかった。

#### ＜成果と課題＞

ラオス事務所では、他事業の実施に忙しく、出版事業に十分な人手を割けなかったことから、新しい作品作りに取りかかれないう状況が続いている。東京事務所でも『ぐりとぐら』の資金調達が遅れ、新規図書の資金調達にまで手が回らなかった。

### Ⅲ 子どもセンタープロジェクト

＜計画＞ 活動支援は引き続き休止とするが、活動状況を確認しつつ、センター図書室への図書の補充の支援を継続。

#### ＜実施＞

今期は活動状況を確認しつつ、ルアンパバン、ボリカムサイ、パクライ（サイヤブリ県）の3か所のセンターに図書の補充支援をおこなった。

### Ⅳ 子ども教育支援事業

＜計画＞ 中等学校の生徒向けの奨学金支給事業を拡充し、改編して実施する。

これまで実施してきた中等学校3校にI-1の事業地の8校を加え、ヴィエンチャン県の中等学校11校を対象として、奨学金の給付を実施する。1校あたり3名程度、合計28名～30名の生徒に対して奨学金を給付する。

#### ＜実施＞

計画通り、これまで実施してきたヴィエンチャン県ポンホーン郡とヒンフープ郡の3校に加え、I-1の事業地の8校を加え、ヴィエンチャン県内の中等学校11校を対象として、奨学金の給付を実施した。10月～11月に、当会現地スタッフと県郡教育スポーツ省職員、校長、村教育開発委員が合同で、書類審査と面接審査をおこない、32名の奨学生を決定した。奨学金は1人当たり2,000,000kip。12月と4月の2回に分けて支給した。

#### ＜成果と課題＞

奨学生に選ばれた生徒は、父や母が不在で兄や姉の仕送りが頼りだったり、親や自身に身体障がいや持病があるなど、どの生徒も厳しい状況が伺える。奨学金の使い道は、制服や体育用のシューズをあげるなど、早急な支援を必要としている生徒もいた。

【ご支援：マンスリーサポーター（株）すかいらくホールディングス】

### Ⅴ 国内事業

#### V-1 各種イベント

＜計画＞ 資金調達や新たな支援者の開拓を目的とし、イベントへの参加や開催を効果的にこなす。企業との連携も継続させる。今期も新規資料送付者100名を目指す。

#### ＜実施＞

- ・恒例のピーマイパーティーは、2025年が日ラオス外交関係樹立70周年ということで、ラオスの歴史と当会の活動を振り返る第1部とラオス料理や伝統行事を楽しむ第2部の構成で実施。参加者は102名、ボランティア、ラオスからのゲスト、スタッフを併せ143名の参加となった。
  - ・例年実施している東京谷中の「エスノースギャラリー」での展示販売会は12月に開催。京都哲学の道の「桜谷町47」での展示販売会は、秋と恒例の春と2回の実施となった。
- 今期は、以下のようなイベントを開催、出展した。

7/1-8/31

カフェ&ダイニング素々 展示委託販売(1/25-2/28、5/10-6/30にも実施)

8/6-27	京都恵文社ブックフェア 展示委託販売
9/28-29	グローバルフェスタJAPAN2025 出展
10/3-7	「ラオスの手仕事」展 京都「桜谷町47」にて開催
12/13-29	the ETHNORTH GALLERYラオスの手仕事vol.11～タームック織りの世界～ 開催
3/26-31	「ラオスの織り 無形文化遺産ナーガ文様」展 i京都「桜谷町47」にて開催
4/20	ピーマイパーティ 開催
5/24-25	ラオスフェスティバル2025 出展
5/31	「ミニハートカフェ」(パルシステム神奈川@鶴見センター)出展
上記以外に、年間を通じて「青梅こども未来」「国立民族学博物館ミュージアムショップ」 「the ETHNORTH GALLERY」で委託販売をおこなった。	

#### ＜成果と課題＞

- ・ 今期は、イベントへや絵本プロジェクトへの参加が増えたことで、新規資料送付者を100名増やす目標は達成できた。
- ・ 参加イベントの目標設定をより明確に意識することで、達成、収益をより上げる必要がある。

#### V-2 出前講座活動

＜計画＞ 学校を訪問したり、オンラインを繋いで実施する「出前講座」「講師派遣」を、年間3～4件を実施する。

#### ＜実施＞

今年度は以下の学校に講師派遣や訪問受入れをおこない、ラオスや国際協力、当会の活動への理解を促進することができた。

1/20	学習院女子大学にて授業
2/4-5	東京女学館中学生(2グループ)来訪
6/10. 17. 24	学習院女子大学にて授業(ラオスとの交流含む)

#### ＜成果と課題＞

出前講座は広く活動の意味を伝える機会として重視しているが、人手が充分でないことから講座の広報をすることができていない。

#### V-3 ラオス語絵本プロジェクト

＜計画＞ 更新された絵本リストを用い、支援者の拡大及び開発教育として、個人協力者に加えて、企業・学校・団体との連携を継続して実施する。プロジェクト参加者が活動支援を継続するように、組み立てを工夫する。

- ・ 年間参加者・団体70件、1,000冊の完成絵本をラオスに届ける
- ・ 追加する絵本を選定し新規翻訳絵本を3冊増やす。既存の翻訳シートの内容確認をすすめる(目標10冊分)

#### ＜実施＞

- ・ 年間72件の参加があり、約1,600冊の完成絵本をラオスに届けることができた。
- ・ 追加する絵本を3作品選定し、出版社の許可も得ているが、翻訳が完了していない。
- ・ 既存の翻訳シートの内容確認は、原本のワード文書のファイル化をすすめる中で、タイプミスやレイアウトの不備の修正などすすめることができた(11作品)。

#### ＜成果と課題＞

- ・ 個人での参加、企業単位での参加などプロジェクト参加者は増加している。参加者に、活動の意味やNGO活動の意義を正しく伝え、活動支援者となるように丁寧に対応する必要がある。
- ・ 翻訳リストの更新は、現地での活用促進のためにも、すすめる必要がある。
- ・ 貼付シートを現在のコピー紙へのプリントの他、糊付きシートでの提供も次年度から開始する。

【学校・企業・団体での参加(順不同)：三菱UFJ信託銀行(株) 積水ハウス(株)兵庫工場 積水ハウス(株)中日本プロジェクトセンター 東京海上日動火災保険(株) 文化学園大学杉並中学・高等学校 (株)ニコン 沖電気工業(株) (株)ジェーシービー 日本フィランソロピー協会 自治労名古屋教育支部 自治労三重県本部 千葉港ロータリークラブ 特定非営利活動法人地球の木 秋田県立西目高等学校ボランティア委員会 茗溪学園中学高等学校・JRC同好会 沼津市立今沢小学校 八王子市立由木小学校 京都光華女子大学】

## 会の運営

＜計画＞ 国内においては、目的、対象と成果を明確にした多様な広報活動を強化することで、より多くの方々に活動の理解をいただき、資金調達に結びつける。新人雇用を図る。

ラオスにおいては、スタッフとNGO活動の理念の共有化をさらに深め、事業運営において情報共有を高める。また、国際協力機関との連携を強め事業受託をすすめる。担い手となるスタッフの育成に努める。

## VI 理事会

＜計画＞ 経営、資金調達、プロジェクト進行などの状況を把握し、組織運営を管理し運営方針の決定をおこなうため、年に3～4回開催。広報や出版等の事業分野において、理事は専門性を生かした関わりをおこなう。  
第9次中期計画の中間評価および年次計画の評価をおこない、活動の展望を探る。

### ＜実施＞

今期の運営責任は以下の理事・監事によって担われた。

理事	塩谷 光	新藤 雅章
	チャンタソン インタヴォン	西村 恵子
	野口 朝夫	森 透
	森 千也	岡田 龍之介
監事	脇田 康司	矢崎 芽生
顧問	長野 ヒデ子	やべ みつり

・経営、資金調達、プロジェクト進行などの状況を把握し、組織運営を管理し運営方針の決定をおこなうため、理事会を4回開催した。各回、理事による熱心な討議がおこなわれた。

第1回 9/7 10名出席（うちオンライン出席3名、書面表決2名）

主な報告・討議テーマ：現地事業進捗報告、第23期修正事業計画案・予算案の確認と承認、第22期事業報告案・決算報告案の討議と承認、監査報告承認

第2回 12/7 8名出席（うちオンライン出席2名）

主な報告・討議テーマ：経営状況と財務状況報告、現地事業進捗報告、各種キャンペーンやイベント実施報告、第9次中期計画の点検 振り返り

第3回 3/8 8名出席（うちオンライン出席2名）

主な報告・討議テーマ：現地事業進捗報告、経営状況と財務状況報告、イベント実施検討と報告

第4回 6/28 8名出席（うちオンライン出席2名、書面表決2名）

主な報告・討議テーマ：現地事業進捗報告、財務状況、第24期事業計画・予算案の承認、2025年度2026年度理事候補案の検討と選任 定款変更に関する討議 アドバイザー契約の承認

（上記、理事 監事の出席人数を含む。各理事会にはアドバイザー、スタッフが陪席している）

・広報や出版等の事業分野において、理事の専門性を生かした関わりをいただいた。

・第9次中期計画の中間評価を第2回理事会で、年次計画の評価は6月に実施した。

## 総会

### ＜実施＞

9月21日、2024年度通常総会を活動会員33名（書面表決者13名、委任状提出者3名含む。オンライン参加4名）が参加し開催した。2023年度第22期の事業報告案及び決算報告案が承認され、2024年度第23期の事業計画書、予算が報告された。第2部の企画では保育士の西村恵子さんによる絵本の読み聞かせがおこなわれ、図書館活動アドバイザーの下田尊久さんから「現代の図書館の役割からみた図書館活動の意義」と題した話をしていただいた。その後、絵本や図書館に関する意見交換が活発におこなわれた。

## VII 東京事務所 運営

＜計画＞ 事務所運営はリモートワークと事務所での勤務を併用しながらおこなう。

専門性のあるボランティアスタッフに会計などの業務の一端を担ってもらう。

・運営を強化するために、新たな人材を雇用する。

### ＜実施＞

以下の2名で運営を担当した。

野口朝夫	常勤非専従事務局長	1992年1月入職
赤井朱子	スタッフ	1995年4月入職

この他、小林毅アドバイザーから組織運営および事業運営（募金計画や各種キャンペーン）に関するアドバイスと支援を受けている。

- ・事務所運営はリモートワークと事務所での勤務を併用しながらおこなった。スタッフ、アドバイザー、および駐在員と定期的に運営会議を開催し、業務進捗の確認や調整をおこなった。
- ・今年度も専門性のあるボランティアスタッフに会計などの業務の一端を担っていただいた。
- ・運営を強化するために、新たな人材を試みたが、応募者が出なかったことから、達成していない。

## VII-1 事業運営

＜計画＞ これまでの理念・使命を継続し、N G Oの倫理を保ちつつ、運営の質をより高める。

- ・東京都への認定N P Oの更新手続きが完了し、税制上の優遇措置が継続される。
- ・東京事務所、ラオス事務所間で理念・使命・情報共有を高めるために、以下の活動を継続しておこなう。
- ・会員および支援者の継続率を高め、新規支援者を増やし、寄付金収入を増額させる。
- ・これまでの活動実績を和文・英語で事業ごとに公開し、これらを広報ツールに用いる。
- ・対象に合わせたメディアにより、広報力を強化する。

## ＜実施＞

- ・東京都への認定N P Oの更新手続きが6月に完了し、税制上の優遇措置が継続された。
- ・東京事務所、ラオス事務所間で理念・使命・情報共有を高めるために、以下の活動をおこなった。
  - ✓ 東京・ラオス間で定期的に会議は、7月9月10月6月の4回実施した（11月～5月はスケジュール調整が難しく、実施できなかった）。
  - ✓ 両事務所が協働し、年次計画の評価と次年度計画策定を年度末におこなった。
  - ✓ 中期計画案を共有し、年次の評価活動を年度末におこなった。
  - ✓ 事業調整や広報取材等のためにラオスへの出張を以下の通りおこなった。

2024年11月23日-12月1日：赤井朱子

この他、チャンタソンと野口が所用で出張した際に、ラオス事務所での会議や事業調整をした。

- ・会員および支援者の継続率を高め、新規支援者を増やし、寄付金収入を増額させる計画であったが、会員の継続率や新規入会人数は下がってしまった。（活動会員は、2024年度の新規加入は1名。賛助会員へ変更が3名となり人数が減少。）
- ・これまでの活動実績を和文・英語で事業ごとに公開する計画だったが、和文の準備をすすめたが、公開までに至らなかった。
- ・会員および支援者による継続支援のツールとして、対象に合わせたメディアにおいて「広報」活動を継続した。

	今年度	2023年度	2022年度	2021年度
ホームページ 記事発信	13回	10回	17回	33回
ブログ 記事投稿	0回	4回	7回	7回
フェイスブック 記事投稿	56回	53回	63回	94回
フェイスブックフォロワー	1,598人	1,570人	1,537人	1,423人
インスタグラム 記事投稿	25件	17件	16件	29件
X（旧ツイッター）投稿	3件	10件	13件	17件
新聞 記事掲載	2回	5回	6回	6回

新聞掲載は2回「ぐりとぐら」募金1回、織物展1回 どちらも京都新聞。

ホームページ、フェイスブック、インスタグラムの記事投稿は増えたが、ブログとXの投稿はできなかった。

- ・紙媒体では「ラオスのこども通信」を以下の通り年3回 計4,000部発行した。
  - 88号（8月発行）特集「図書室からひろがる学び、2年目へ向けて」
  - 89号（1月発行）特集「ついに、ラオス語版『ぐりとぐら』を出版します！」
  - 90号（6月発行）特集「ラオスと国交を結んで70年という年に」
- 「年次報告書」は12月に500部発行。奨学金を支援するマンスリーサポーター向けに「マンスリーサポーター通信」を12月と6月に発行した。
- ・ニュースレター及びホームページのリニューアルは実施できなかった。

## ＜成果と課題＞

限られた人的資源の中、メディアに対する発信は継続的におこなわれ、ある程度成果となったが、より広く会の活動を認知してもらい、支援者となっていただくために、記事の内容、発信時期など

もう一段の工夫が必要とされる。

## VII-2 組織運営

＜計画＞・事業成果の継続と発展を重視しつつ、変化する現場の状況把握を深めるために、現場のモニタリングを実施し、報告書をまとめる。年次報告書を発行する。

- ・事業の評価指標を整備し、事業を適切にモニターし、年次の評価を実施する。
- ・出版や図書館の専門家と連携し、プロジェクト運営の質を高める。
- ・各プロジェクトを着実に実施する。

＜実施＞

- ・事業成果の継続と発展を重視しつつ、変化する現場の状況把握を深めるために、事業のモニタリングを定期的実施し、その結果をまとめた年次報告書を発行した。
- ・事業の評価指標を整備し評価を実施する作業は、JICA草の根技術協力事業ではおこなわれているが、他事業では実施できていない。
- ・出版事業や読書推進事業において、専門家との連携を継続し、プロジェクト運営の質を高めることができた。

## VII-3 資金調達

＜計画＞・寄付メニューを対象別に分かりやすい内容で構成し、広報に活用する。

- ・賛助会員拡充を図り、会員数や会費金額を増加させる。
- ・マンスリーサポーターを拡充するキャンペーンを実施する。
- ・「書き損じハガキ」協力者や「ラオス語絵本プロジェクト」参加者へ継続的な支援の働きかけをおこなう。
- ・夏冬の特別募金を実施する。ストーリー性を持つ内容でチラシデザインを工夫し募金額を増やす。
- ・オリジナルカレンダーの制作と販売を拡充する。
- ・ラオス語図書の販売を継続する。
- ・書き損じはがき・未使用切手収集キャンペーンを実施する。
- ・英語の広報ツールを活用し、在外ラオス人からの寄付や事業支援の呼びかけを強化する。

＜実施＞

- ・寄付メニュー見直しは今期はおこなわず、これまでのものを継続した。
- ・賛助会員拡充を図り、キャンペーンを実施したが、会員数や会費金額の増加には至らなかった。
- ・マンスリーサポーターを拡充するキャンペーンを実施したところ、8人17,000円/月増加した。
- ・「書き損じハガキ収集キャンペーン」協力者や「ラオス語絵本プロジェクト」参加者へ継続的な支援の働きかけをおこなった。ハガキの協力者は、無記名な人が増え、寄付に繋げるのがなかなか難しいが、知り合いに呼びかけるなどして、ハガキや切手の寄付を継続して下さる方もいる。絵本プロジェクトの協力者は、参加費の振込と一緒に寄付を下さる方が多い。
- ・特別募金は、「ぐりとぐら特別募金」の1回の実施となったが、大口の寄付もあり、1,519,738円のご寄付を得ることができた。
- ・オリジナルカレンダーの制作と販売は、今期も子どもたちの絵を題材に、例年通りに実施できた。
- ・ラオス語図書の販売は、ラオス側も東京側も前年より販売が伸びた。
- ・書き損じはがき・未使用切手収集キャンペーンは、「ぐりとぐら特別募金」と連動したキャンペーンとしたが、広報を充分におこなえなかったことから、385,102円分の実績と、昨年度より減少した。
- ・英語の広報ツールを活用し、在外ラオス人からの寄付の呼びかけを強化し、ラオスのOne PayのQRコードを掲載した資料を作成したが、まだ寄付獲得には繋がっていない。
- ・京都での織物販売イベントを春秋2回開催したほか、ピーマイイベントに多数の参加をいただくなどにより、収益を得ることができた。

＜成果と課題＞

昨今の世界情勢、経済状況から、国外で活動するNGOに対する関心は、弱くなっている。このような中、経済的にも成長しているラオスにおいて、会の活動と意味を紹介し、支援者、資金提供者を獲得する活動がこれまで以上に重要となっている。

## VII-4 人材育成

＜計画＞ 専門家とアドバイザーの指導と協力により、募金、広報、事業評価、図書館運営、出版の領域でスタッフの実務研修を重ねる。



### <実施>

- ・このところ成果を上げてきた「書き損じハガキキャンペーン」だが、担い手と期待されたインターンとの協働やプレスリリースがうまくいかず、成果を上げることができなかった。
- ・図書館運営や出版での専門家によるアドバイス、実務研修は、東京ラオス両事務所で共有されている。

### <成果と課題>

人材育成の重要性は強く認識されているが、日々の運営に人材が足りない状況で、取り組む余裕が持てない。

## VII-5 その他（ネットワーク、ボランティア等）

<計画>・支援者が参加する「活動ミーティング」の開催の代わりに、活動報告会をオンラインなどを含めて開催する。

- ・国際協力NGOセンター、教育協力NGOネットワークのネットワークを維持する。
- ・開発教育の一環としてインターン・ボランティアを受け入れる。
- ・会計など専門ボランティアの募集をおこなう。

### <実施>

活動報告会は、人手不足やタイミングが合わず、開催できていない。

国際協力NGOセンター（JANIC）正会員、教育協力NGOネットワーク（JNNE）会員を今年度も継続し、森透理事がJNNE代表を務めた。

また例年通り、会計の専門ボランティア（風間美苗さん、福島孝好さん）が、会計業務を担って下さった。事務所では、インターン2名とボランティア1名が定期的に来て活動を支えて下さった。

10月のグローバルフェスタ、4月の京都織物展、ピーマイパーティ、5月のラオスフェスティバル、などのイベントでは多くのボランティアに支えていただいた。

専門ボランティアの募集はできなかった。

### <成果と課題>

日本のNGO組織をまとめるJANICだが、弱体化しており、どのように会として接点を持つか、判断が必要となっている。

専門ボランティアが継続して活動を支えて下さることに大変感謝しているが、世代交代の必要もあり、より新しい方の参加を模索が必要となっている。

## VIII ラオス事務所 運営

以下の体制で運営を担当した。

スラピー	ラオス事務所所長	2011年7月から事務所所長	2006年1月入職
チャンシー	事務所図書室、図書在庫管理		1998年8月入職
バンロップ	読書推進事業、図書委託販売		2013年7月入職
スパポーン	総務、会計、読書推進事業		2014年12月入職
ティンリー	総務、会計		2024年6月入職
ダラー	顧問		

上記に加え、渡邊淳子に駐在員として、事業および組織運営のサポート業務を委託した。

### VIII-1 組織運営

<計画>・事業の実施状況の振り返りがおこなわれ、事業計画案と予算案の策定に反映される。

- ・活動理念・使命が共有される。
- ・スタッフ会議、東京事務所との会議を定期的に行い、各事業の進捗確認、振り返り、実施計画、調整、業務分担確認などがおこなわれる。会議記録を作成する。
- ・事業運営が適切にモニターされ、年1～2回、ラオス事務所としての報告をまとめる。
- ・図書出版業務やプロジェクトマネジメントに関して、新規人材の雇用を検討する。

### <実施>

- ・事業の実施状況の振り返りが6～7月におこなわれ、事業計画案と予算案の策定に反映された。
- ・スタッフ会議は、出張のない時期は週1回の割合で定期的に行われ、各事業の進捗確認や調整などができている。東京事務所との会議は、時期により予定が合わず、十分な開催ができていない。

- ・事業運営の振り返りはできているが、ラオス事務所としての報告をまとめる作業はできていない。
- ・出退勤管理は、以前に比べて改善傾向がみられるが、始業時間などまだ充分でない面もある。
- ・図書出版業務やプロジェクトマネジメントに関して、新規人材の雇用を検討したが雇用には結びつかなかった。

#### <成果と課題>

出張が続き、ギリギリの体制の中で、スタッフは事業を担い貢献的な働きを続けてくれた。これまでの事業実施での経験から、ラオス事務所スタッフは、ある程度イニシアチブをもって活動ができるようになっている。とはいえ、文書化作業が全体的に得意でなく、この点は改善が必要とされる。

### VIII-2 事業運営

#### <計画> 各プロジェクトを着実に実施する。

M o U に定められた報告書の提出、評価会議の開催、所轄庁への報告を確実に実行する。

主な事業地であるヴィエンチャン県・郡と連絡を密に保つ。

#### <実施>

- ・計画していた各プロジェクトは概ね実施することができた。
- ・M o U（ラオス政府との活動覚書）に定められた報告書は、3か月目と9か月目のレポートは遅延なく提出できているが、I M C 会議（政府機関とのM O U 事業の中間評価）を開催する6か月目と12ヶ月目の報告書は、議事録の作成に時間がかかり、提出が遅れた。
- ・主な事業地であるヴィエンチャン県・郡と連絡を密に保つことは継続的に実施できている。

#### <成果と課題>

今年度は、「地域学習」という新しい活動に試行錯誤しながら取り組むことができた。次年度は、M o U の最終年度となるため、事業完了となる2026年5月までに、対象校の学校図書室の運営・活動状況を注視しながら、計画している事業活動をいかに実施し、次に繋げていくかが重要となってくる。

### VIII-3 資金調達

#### <計画> 【図書販売】販売実績の確認を定期的実施し、販売戦略を検討し、売上予算を達成する。

国際機関、国際協力NGO、私立学校・幼稚園を中心に購入の働きかけをおこなう。

販売委託先は、書店などを中心に働きかける。

【受託事業】NGOや国際機関からの業務委託は、会の業務量とのバランスを計りつつ実施の可否を決定。

#### <実施>

##### 【図書販売】

- ・ラオスでの図書販売売り上げは、N G O の購入があり、109,085,000LAKと目標値 40,000,000LAKを大きく上回った。
- ・毎月15日までに、販売実績レポートを作成し、スタッフ会議で状況分析と今後の販売方針について協議する機会を設けることはできた。
- ・幼稚園や小学校8校を訪問し、宣伝と売り込みの結果3校で図書を購入した。
- ・国際協力N G O は、新規3団体に販売活動をおこなったが、購入には至らなかった。
- ・スーパーなど委託販売先を12か所増やすことができた。

##### 【受託事業】

- ・事業の実施に追われ、業務委託を受ける働きかけができず、今期は受託事業がなかった。

#### <成果と課題>

私立学校やショップ店舗への本の売り込みは、スタッフ自身である程度できるようになった。一方、N G O や国際機関などに売り込むアプローチは未だ弱く、駐在員に頼っている状況にある。会の出版物は教育スポーツ省の認定を取得するようになり、他団体への売り込みがし易くなっているが、出版物の広報が充分でなく認知度が低く販売に繋がっていない。事業受託においても、活動の認知度を上げる必要が強くある。

### VIII-4 人材育成

#### <計画> 専門家の指導と協力を受けつつ、着実な人材育成に取り組む。

- ✓ 図書館の専門家によるO J T をおこなう

- ✓（出版担当者の決定後）専門家の指導により、出版プロセスを通しての実務研修をおこなう
- ✓ タイ国内の組織が主催する研修で、有益かつ参加可能なものがあれば、積極的に参加する

#### ＜実施＞

図書館の専門家によるOJTは、プロジェクトのなかで実行できた。  
出版については、担当者が決定しなかったため、実務研修ができなかった。  
タイ国内の研修も、適当な内容や時期のものなかったため実施しなかった。

### VIII-5 広報

＜計画＞ SNSを用い、事業の成果を発信し、国際機関、国際協力NGOでの認知度をたかめ、図書販売に結びつける。  
フェイスブックで毎月当会出版本を紹介することで、学校や子ども達に対し図書の魅力・有効性を伝える。  
英語による発信を強化することにより、在外ラオス人に当会の活動について、認識を高める。

#### ＜実施＞

ラオス事務所のフェイスブックページでのプロジェクト実施状況の発信はできている。（年間で昨年度よりも多い59回の記事を投稿し、積極的に活動紹介やイベントの宣伝をした。  
毎月当会出版の本を紹介は、8～10月と6月には月1～2回投稿できたが、それ以外の時期は業務が忙しく投稿することができなかった。  
英語による発信の強化は実行することができなかった。

#### ＜成果と課題＞

ラオス事務所スタッフが工夫し、発信できるようになっているが、それを視聴してもらう働きかけは充分に行えていない。会の認知度を上げるためにも、他NGOや国際機関、さらにラオス社会の目が留まるよう工夫をして、発信の継続が必要である。

### VIII-6 ネットワーク

＜計画＞ 国際協力NGO（INGO）、日系NGO（JANM）との連携を維持する。

#### ＜実施＞

国際協力NGO（INGO）、日系NGO（JANM）との連携は継続されており、WhatsAppグループなどで日々の情報交換を行っている。また駐在員が課題により、個別に相談や問い合わせをおこなうなど、ネットワークが生かされている。

### VIII-7 インターン・ボランティア

＜計画＞ 社会開発やNGOへの理解を深めるため、インターンやボランティアを受け入れる。

#### ＜実施＞

ヴィエンチャン在住の高橋さん、船津さん、崎田さんが事務所にて定期的にボランティア活動をおこなってくれた。

### VIII-8 訪問受入れ・イベント参加

＜計画＞ 訪問受入れは、現地での受け入れ体制の状況に応じて調整をしながらおこなう。

#### ＜実施＞

訪問受入れは、状況に応じて調整をしながら、事務所訪問のみ実施。現場訪問はラオス政府の方針が厳格化されたことで、難しくなっている。この1年、以下のような受入やイベント実施をおこなった。

8/1-10/16	JICAラオス事務所にて企画展 開催
8/20	チャンタソン JICAラオス事務所にて講演
10/22	READING ELEPHANT LAO in Bokeo 訪問受入
10/23	先生の日イベント(ITECC) 参加
12/25	ALC図書室スペシャルイベント 開催
1/11	ラオス日本センター（LJI）での日本の正月祭り 出店
1/23	Research Center of Lao Culture and Folklore (CAF) とのオンライン交流
5/30	子どもの日イベント(ヴィエンチャン都CEC、ヴィエンチャン県教育局)
5/30	KPL (LAO NEWS AGENCY ラオス国営通信社) 訪問・取材受入
6/17、6/24	学習院女子大学 オンライン交流授業

※上記以外に、大学生やご支援者の訪問受入を数回実施